

静岡県富士川工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

富士川工業用水道事業は、富士市内の水田の用排水改良と、富士臨海地区の工業用水の補給を共同事業として施行したもので、地区の状況は次のとおりである。

富士地区における富士臨海工業地帯は、潤井川の河川水ならびに富士山系より浸透した豊富な地下水の利用と東海道沿線という交通の便とにより、従来より製紙業を中心とした工業地帯として発展してきたが、近年田子の浦港の整備と相まって港湾背後地への新規工業の進出が目覚しく当地区の工業は著しく発展した。

しかし、工業の躍進に伴い水の使用量も増大し、豊富な地下水もさく井の乱掘により相互干渉を来し、海岸に近い地域では水位の低下により塩水混入の傾向が甚だしく飲料水、工業用水として使用できないような状況であり、また、地下水の過剰汲み上げにより地盤沈下の恐れもあることから地下水の新規開発は極度に制約しなければならなくなった。

このため静岡県は、農業用水と一部共同工事方式で富士川工業用水道事業を計画し、水源を中部電力芝富発電所放流水に求め、富士地区の工業用水を確保して工業発展の整備を図ることとした。

○事業の経緯

富士川工業用水道事業は昭和32年に農業用水と一部共同工事方式で着手し、昭和39年4月から一部給水を開始、昭和41年度に完成し、昭和42年度から全量給水を行っている。

○ユーザーの概要

(平成20年3月末現在)

業種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
食料品関連	1	12,667
繊維工業	2	2,987
紙・パルプ	7	128,365
化学	2	23,700
石油製品		
その他	2	200
計	14	167,918

○工業用水道施設の概要

富士川工業用水道事業は、水豊富で水質良好な芝川町芝富地内にある中部電力芝富発電所より放流された水を、芝川町佃島地内にある制水槽まで導水し、工水、農水の必要水量を取水ゲートにより調整し、余水は取り付け水路により富士川に還流する。

この取水地点から富士市滝戸地先に至る間は隧道サイフォン（延長L=7 km）により導水し、滝戸隧道出口付近にて工業用水を分水し、配水管路によって各工場に配水する。

○事業の特徴

富士川工業用水道は、原水の水質が良好であるため、滝戸沈砂池で沈砂後、原水をそのまま自然流下で各工場へ給水しているため、工業用水道料金が1 m³当り7.3円と、静岡県の工業用水道事業の中でもっとも安価な料金設定となっている。しかしながら、河川の上流部の降雨時には原水の濁度が上昇し、そのまま各企業へ配水される。そのため、取水地点に監視所を設け、濁度上昇の際には濁度連絡により、各ユーザーへの情報提供をしている。

○静岡県企業局のホームページアドレス

<http://www.pref.shizuoka.jp/kigyou/>

(給水区域図：前ページ下に掲載)

○富士川工業用水道概要図

